昔は一村一品運動、今は農業の六次産業化が掲げられている。「ワインのある村で地域を元気に・地域興しに」俺がやってやると昭和53年、卒業と同時に親戚、血縁、縁故、知人もいない田舎の朝日農協（現庄内たがわ農協）に飛び込み、以来、事業起ち上げから定年退職までの間、ワイン事業一筋に携わらせてもらった。当時私にあったもの、「やる気」だけは人一倍と負けん気、成績は別にして有機化学、生物化学、微生物学などの醸造基礎知識、恩師からも「やる気さえあれば何とかなる、君だったらできる」の一言。

山ぶどう栽培は、失敗を繰り返しながらも山大農学部や関連機関から協力を得ながら解決策を見出し、栽培技術を確立、生産量を伸ばしていった。しかしながら、「ワインは原料が全て」と部会員に言っても「質より量」の取組に傾斜しがち。困った。世界のワインと太刀打ちできる品質設計にし、それを支えるぶどう生産に向け既存品種の改植を決断、高品質ワイン生産へと大きく舵を切った。「売れなくなるのはお前らの営業努力が足りないからだ」、「品質は醸造の腕が悪いからだ」などなど抵抗が大きく、進展しない日々が続いた。農家説得を続け、山ぶどうの他に山ソービニオン種、櫛引地域で伝統的に栽培されてきた「甲州種」を加え、庄内のテロワール（地域特性）を深めたワイン生産への基盤を整えた。やがて、国産ワインコンクールやジャパンワインチャレンジなどに毎年入賞が続き、国内で確固たる評価を得るまでになり、いつのまにか「月山ワイン」は村の誇りとなる特産物となった。

「人生仕事で遊べたら最高人の心は不思議な働きをする　思い続けたことが現実となるのだ」こんな夢追い人の軌跡だったかなと想う秋の夜長です。

退職後も、庄内地域の風土特性を生かしたワイン造りをすすめ、「里山のワイナリー」の応援団員として、地域振興・農地保全に寄与できればと考えている。

近況です（退職しました）

札幌市在住
磯部　勝彦
（昭和52年農業工学科卒）

最近、異常気象という報道を多く目にすることがあります。全国各地で短時間に集中的に大雨が降り、交通機関や農地などに大きな被害が出ています。鶴岡市でもこれまでにない大雨で大きな被害が発生したとの報道がありました。

私は防災ダムの建設など防災事業に多く携わってきました。防災事業は30年、50年、100年に一回程度発生する確率の大雨（洪水）などを対象にして事業計画をたてるのが一般的です。いわば希にしか発生しない事象、今まで経験したことのない事象を対象とするため、「本当に必要なの？」「そんなに大きな物はいらないのでは？」「なぜ、今なの？」などと、なかなか理解が得られづらい事業でもありました。

ところが近年、温暖化のせいか「観測史上初めて」とか、「観測記録を更新」など異常気象と言える事象を多く耳にしていますし、「災害は忘れた頃にやってくる」という言い古された言葉を実感したのも新しい記憶です。あらためてこれまで私が携わってきた防災事業の必要性や重要性を再認識するとともに、難しさも痛感しているところです。

ところで、私は本年3月に36年勤めた北海道庁を退職しました。定年には少し早いのですが、新たな一歩を踏み出したところです。防災ダム事業、地すべり対策事業、海岸保全事業、農地保全事業など役所勤めの人以外はなじみの薄い言葉かも知れませんが、36年間のうち、約半分をこれらの防災事業に携わってきました。北海道の広大な農地も元は原野を切り開いて造成されたものです。先人が大変な苦労の末に、自然との闘いによって獲得したもので、これらのものを維持保全していくのもまた大変です。防災事業などを計画的に実施していくことは今後とも重要なことと思っています。

TPP交渉など日本の農業、とりわけ北海道にとっては厳しい状況が予想されます。これからも農地等保全のための防災事業の行く末を見ていきたいと思っています。

母校 山大農学部 そして鶴窓会に感謝

宮城県仙台
農業改良普及センター
丹野　武彦
（昭和53年農学科卒）

毎回拝見しております鶴窓会だよりは、充実した内容で全国の先輩諸氏同窓生の皆さんのがんばっている様子がわかりいつも元気付けられます。どこにも負けない会報ですね！

40年前に月山や鳥海山の姿に感動して当地で学生生活を送るようになり、気温39度や冬の吹雪等ダイナミックな気候の庄内平野の風景、また下宿のダダ茶豆ご飯等を思い出します。

このような中、のんびり屋の私は、卒論を仕上げるのに気をとられ？、就職浪人に。ここで、やっと人生を考えるようになり、農業改良普及員となることを決意。両親

には心配をかけましたが、自宅で猛勉強?させてもらえて今更ながら感謝しています。

初任地の白石農業改良普及所の時に、東北6県の新任普及員研修に参加。何とそのときの指導担当者が鶴窓会の齋藤副会長でした。その後も卒業生の皆様に出会いお世話になっています。

ところで東日本大震災の時、私は気仙沼地方振興事務所勤務で、管内の南三陸町で山の上に避難しました。3日後に戻ったら2階の事務室は津波で流されており、被害の少なかった別の事務所に移って、体制を立直しているところでした。車も鉛筆も紙も無い状況でしたが、被害状況の確認と復旧事業の準備に入りました。数日前に会ったばかりの町や農協の職員が亡くなられたことを知りましたが、農家の方々からは再起のための事業の問合わせや要望が出され、それを受けて関係機関や団体が一体となって対応し、現在は農業機械や施設が導入され、新たな営農システムも展開されつつあります。山大農学部の学生が被災地に多数の自転車を寄贈してくれたそうですが、絶望的な状況からここまで進めたのは、そのような全国からの応援があったからだと心より御礼を申し上げる次第です。

近況

仙台市在住

伊川 慶一

（昭和53年農芸化学科卒）

卒業してから35年がたちました。生まれてから経過した時間が、昭和より平成のほうが長くなってしまいました。鶴岡で過ごした2年半が遠い昔になりつつあります。あの頃は時間、体力にとらわれず何事にもとことん行動していたように思います。徹夜で麻雀し、お酒もつぶれるまで飲んでいました。勉強も試験前にはそこそこやっていたと思います。今の自分は年齢を重ねた経験が、結末を考え自制心が自分を抑えた行動を執るようになってきました。鶴岡時代のあの頃の自分がちょっと羨ましい気分です。幸いにも病気や大きな怪我もなく今日に至っております。

【仕事】卒業後、地元仙台のかまぼこ会社に就職しました。2年前の東日本大震災を機にそれまで33年務めた会社を退職し、某コンビニのベンダー会社で品管職を務めております。近年の消費者は言った者勝ちという感が強く、「おにぎりの具が少ない」と電話がかかってきてそのたびにお詫びに伺い、昔はこんな事で苦情なんか言わなかったと考えるこの頃です。

【家庭】上の娘が結婚し孫が生まれ、自分も御祖父さんの仲間入りをしました。下の息子も成人式を終え、子育ての期間も終了。親としての役目を無事終えることができました。

【趣味】仕事優先の社会人生活を過ごしてきた自分の唯一の趣味が釣りです。船釣りが主ですが先の東日本大震災後、自粛しております。

【世代交代】三年前に父親を亡くして、喪主を経験しました。去年は義兄が亡くなり自分の上の世代の親戚は、もう三人しか残っておらず、甥や姪には子供ができ次世代へのバトンタッチが確実に進行しています。

【同窓会】先日、高校の部活（テニス部）の集まりに参加し先輩、後輩に会いました。初めは先輩だと思った人に敬語で話しかけたら後輩だったりして、やはり年月の経過を実感させられました。

【東日本大震災】あの地震、津波が会社を辞める契機になりましたが、会社の同僚には二十歳の娘を亡くした人がおります。自分より先に子供が亡くなることがどんなに辛く悲しいことか、彼の心中を察するに余りあるものがあります。生かされている今に感謝しなければならないと強く感じました。

【同期会】鶴岡時代は人生の中でも特別な時間でした。二年に一度、農芸化学科の同期会を鶴岡近郊で開いています。集まれるメンバーも限られてきましたが、この時は利害関係のない昔の自分に戻れます。もうすぐ還暦ですが卒業以来会っていない同級生に会ってみたいものです。

【終活】この度、同期の中井さんから鶴窓会の会報誌投稿の話があり今までの自分、これからの自分を見つめなおす機会になりました。もうすぐ定年を迎え、人生の半分以上が経過しました。これまで仕事中心の生活で一日のほとんどが仕事でした。これを機に少し気持ちに余裕をもって過ごしてゆきたいと思います。仕事から解放されたら、鶴岡を訪れかつて見なかった、また見れなかった鶴岡、自分を見てみたいと思います。末筆ながら山形大学、鶴窓会の発展と会員のみなさまのご活躍とご健勝をお祈りいたします。

第46回衆議院議員総選挙

宮城県在住

首藤 博敏

（昭和57年農芸化学科卒）

平成24年12月4日（火）、事前の表明もせず、公示日当日に、私は、第46回衆議院議員総選挙に宮城県第五区から立候補の届出をし、午後3時15分に書類が受理されました。

その日は、私の人生にとって特別な日となりましたが、周囲の人々からは、様々な声が聞こえてきました。きっと大きな宝くじに当たったに違いないとか、気が触れたに違いないとか、或いは次の選挙を睨んでのことではないかとか。結果からいえば、三つ目の憶測が正解であったということになります。5人の欠員に対して私を含め7人が立候補した今年4月の石巻市議会議員補欠選挙において、7

711票を獲得し、当選者5人のうち4番目の得票数で当選することができたのです。

しかしながら、選挙そのものは泥縄の感が否めませんでした。何しろ告示日の1か月前になってようやく重い腰を上げ、親族に立候補の意志を知らせたのですから。何はともあれ、市議会議員になることができたわけですが、振り返ってみれば、実に綱渡りの人生であったと思います。

私は山形大学農学部を卒業して東京の臨床検査試薬メーカーに就職しましたが、25歳になった頃、政治の世界に対する憧れを抱くようになり、当時総理大臣であった中曽根康弘さんの事務所を訪問したことがありました。上和田義彦秘書に対応していただきましたが、唐突に衆議院選挙に立候補したいと申し出たので、多少呆れながら、その後も気にはかけていただいたようでした。それから、紆余曲折あって故郷の町役場に入り、都合27年間公務員生活を送ることになりましたが、その間、衆議院選挙があるたびに、立候補したいという気持ちは持ち続けていました。届出書類を作成してみたこともありました。しかし、いざ本気で立候補しようと考えてみると、とてつもない重圧を覚えることになります。自分にどれだけの力量や資質があるのだろうか。そして時が過ぎ、すべてはお遊び程度の、決して実現されることのない単なる夢に終わったのです。

第46回衆議院議員総選挙への立候補も、いつも通り単なる憧れだけで終わるはずだったのです。

なぜ実行に移してしまったのか。いくつもの偶然が重なったということがありましたが、ひと言でいえば、男のロマン、男子の本懐を遂げたかったということだと思います。唯一必要だったのは、怯まず臆せず大胆に行動する勇気でした。私は夢を実現するために多くを失いましたが、何物にも代え難い貴重な経験をすることができました。

卒業して30年 お世話になりました

山形県職員
渡邊 潔（旧姓石川）
（昭和58年林学科卒）

昭和58年4月に山形県庁に就職してから、はや30年の時が流れました。振り返ると様々な思い出がよみがえってきます。

7月末、突然今回の原稿執筆の依頼が届きました。鶴窓会とは殆ど無縁の私に何故？。手紙の隅に「寺井義守様からのご推薦」とありました。嬉しいような、迷惑なような感じでしたが、とても懐かしく、この度の依頼を引き受けることにしました。題は自由とありましたから、農学部時代から現在に至るまでの思い出を振り返ってみることにしました。

私は庄内の現鶴岡市（旧藤島町）の出身ですから、寺井君をはじめとする同期の仲間達と一緒に、地元の隠れた名産品をツマミに、美味い二級酒を嗜むのが楽しみでした。また、県内の名所巡りとともに海や川に釣りに出かけ、釣った魚を即料理して食べる等、野性的学生生活を楽しんでいました。

大学4年になると、厳しい就職活動が始まりました。元々勉学嫌いの私が、山形県庁に合格できたのは、有永明人先生の御指導と研究室の同僚のお陰です。試験にはパターンや傾向があり、それを見極めそれなりの訓練を積めば、誰でも合格できると教えられ、必死に努力しました。

就職後は、県庁をはじめ県内各地の出先機関等に勤務しました。特に思い出深いものをいくつかご紹介します。

平成8～10年、庄内空港事務所に勤務しました。主な業務は日本海に隣接して建設された空港を守る防風防砂林の維持管理でした。空港は平成3年10月に開港しましたが、造成した防風林が未だ機能せず、空港に隣接する農地では強風によるパイプハウス等農業施設の被害が頻発し、その都度空港建設に起因する被害か否かの検討がなされました。その際、金内英司先生と急逝された中島勇喜先生には多くのご指導ご支援をいただき、何とか職務を遂行していくことができました。

平成17～19年に勤務した環境科学研究センター時代は、小山浩正先生にブナの豊凶調査でご指導ご協力をいただきました。

平成21～23年に勤務したみどり自然課時代は、環境影響評価の業務で野堀嘉裕先生に、自然環境保全に関する業務で林田光祐先生に、多大なるご支援ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

これらを通じて、農学部時代に培った知識や体験を基礎として、関係者の支援と職場経験で得た処世術により、なんとか難題を乗り越えてこれた、と感じています。卒業して30年、改めてお世話になった農学部に感謝の思いを強くしました。

魅力的な山形について

群馬県職員
中野　葉子（旧姓宇佐美）
（平成元年農学科卒）

大学を卒業して25年がたちました。遠く離れた群馬県に就職しましたが、ブランド力を高めるためとかなんとか理由をつけて、（本当のところは）ストレス解消に鶴岡を訪れています。学生時代は足もなく海にはほとんどいけませんでしたが、社会人になってから海といえば庄内の海という感じです。

その中で感じる事ですが、他県から見るとなんと山形県は魅力的な県であることか！今年も三瀬海岸で地引網に参加、あつみ温泉に泊まらせてもらい、楽しい日々を過ごさせていただきました。岩ガキなる美味な貝や、庄内メロン、だだちゃマメ等、感動する食材ばかりでした。

学生の時は全く手が出せなかった庄内柿、オウトウ、西洋なしもわざわざ取り寄せてまで食しておりますが、芸術品のようなできばえばかりです。

その全てがデリシャスで、知名度ランキング最下位である